

## ところ会 OP-2 行事案内

### 新河岸川を歩く番外編(板橋・成増)

今回は、前回のシリーズで見逃したところ中心に選んで見ましたがコース選定が難しく東上線の成増駅を起点とし、東京都板橋区の東京大仏をメインに散策し成増駅に戻り、遅い昼食(13:00 頃)というコースを決めてみました。

#### 記

- 日 時：平成 31 年 4 月 19 日 (金)  
8:35 までに新秋津駅改札前に集合して下さい。
- 見学場所及び時間：コース全長約 約 3.5km  
新秋津駅 8:44 発乗車/JR 武蔵野線新習志野行⇒北朝霞 8:55 着…朝霞台 9:06 発乗車/東武東上線急行⇒成増 9:13 着⇒赤塚氷川神社富士塚⇒赤塚氷川神社⇒板橋郷土資料館⇒赤塚公園(赤塚城本丸跡)⇒不動の滝⇒東京大仏(乗蓮寺)⇒赤塚植物園⇒成増駅(昼食)⇒成増駅…西武バス…大泉学園北口⇒大泉学園…所沢(解散：予定時間 15:00 頃～15:30 頃)
- 交通費 所沢～約 1,000 円
- 昼食：創作イタリアンと美味しいお酒…ガレリア  
板橋区成増 1-29-15 成増ローヤルコーポ 1F  
電話：03-5968-6576
- ：訪問先簡単ガイド
- ：赤塚氷川神社富士塚  
富士塚を造成したのは、新座郡中沢村（現在の  
新座市）出身の浅海吉右衛門（行名 容行芙厚）  
が開いた「丸吉講」です。当地（旧上赤塚村）へ  
とその丸吉講が伝播した時期については、丸吉上  
成（上赤塚・成増）講に伝わる御三幅「御身拔」  
に、「天保六年、容行芙厚□、七拾七年、書之」と



いう墨書銘が確認されていることから、天保6年(1835)頃と考えられます。

なお、この富士塚の造成時期については、志木市敷島神社の境内にある「田子山富士」に奉納された、明治5年の「丸吉講新富士百三十三所奉納額」に、「上赤塚千元 富士山」と表記されていることから、それ以前の造成と考えられます。

また、塚上に慶応4年(1868)に白子丸瀧講(現在の和光市)の先達を務めた富澤藤七が造流した「登山三十三度大願成就」の碑があり、造成時期はさらにさかのぼる可能性も考えられます。平成23年度に区の登録記念物(史跡)となりました。

平成25年3月 板橋区教育委員会 表示板から

## □：赤塚氷川神社

上赤塚氷川神社は、板橋区赤塚にある氷川神社です。上赤塚氷川神社は、長禄元年(1458年)赤塚城主千葉介自胤が武蔵一ノ宮氷川神社の御分霊を勧請して創建、江戸期には上赤塚村の鎮守として祀られ、明治5年村社に列格しています。当社に藤原広継命が祀られていますが、その理由は不詳だといえます。

社号・・上赤塚氷川神社／祭神・・素戔鳴尊、藤原広継命／境内社・・天祖神社、八幡神社、白山神社、御嶽神社、浅間神社、阿夫利神社、榛名神社、大国神社／住所・・板橋区赤塚4-22-1



## □：板橋郷土資料館

3つのテーマと導入展示からなる展示案内で始まり、旧石器から室町時代までを「生きる」、江戸時代を「暮らす」、明治以降を「戦う」という3つのテーマに分け展示・紹介しています。

参考として、一部その内容を紹介します。

### □：区名の由来

軍記「延慶本平家物語」には、治承4年(1180年)に挙兵した源頼朝が武蔵国豊島の滝野川の「板橋」に布陣したと記されています。ここに地名としての「板橋」が初めて登場し、少なくとも鎌倉時代には「板



橋」の地名があったことがわかります。しかし、地名発祥の由来については、はっきりした史料はありませんが、石神井川にかけられた木の橋を「板の橋」と呼んでいたのが語源とされています。また、『市町村名語源辞典』によると、「板橋」の「イタ」は崖や河岸、「ハシ」は台地や崖の端のことを意味し、崖の端にあった土地を「イタバシ」と呼んでいたと考えられます。そして、明治以降の町名として採用され、昭和7年（1932）に区誕生のとき区名となりました。

#### □：板橋宿

江戸から数えて中山道第一の宿場が板橋宿となります。参勤交代の大名など貴人の休息・宿泊施設として本陣・脇本陣が設置され、一般の旅行者のために旅館や茶店が設けられ、旅行者の休息・宿泊に利用されていました。また近世後期に伝馬50人・50疋が常備され、周辺の42か村が定助郷村となり、物資の輸送等に携わっていました。中山道をはさんで形成された宿場町は、約1.7kmで江戸方面から平尾(下宿)・中宿・上宿と分かれており、それぞれ豊田・飯田・板橋の各氏が名主を務めていました。平尾には21万余坪の広大な加賀藩前田氏の下屋敷が広がっていました。天保14年(1843)の板橋宿の人口は2448人、家数は573軒を数えたといえます。

#### □：赤塚公園(赤塚城本丸跡)

高島平団地と首都高速5号線に沿って、東西にのびる公園。残された自然林、そこを通る遊歩道、広場と運動施設などと赤塚公園は変化に富んでいます。この公園は、昭和18年の都市計画で赤塚緑地として造成されることになっていましたが、戦争のため実現しませんでした。その後、47年の土地区画整理事業で東京都が用地を取得し、49年に開園しました。



#### □：赤塚城跡

赤塚城跡は、板橋区赤塚にある名所旧跡です。赤塚城跡は、荒川低地に面し、東と西に大きく入り込んだ谷に挟まれた台地上にある室町時代の城跡です。赤塚城は、康正二年（一四五六）に千葉自胤が入城、太田道灌に従って各地を



転戦し、武蔵千葉氏の基盤となったといえます。北条氏が武蔵国へ進出した際には、北条氏に従い、北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされた天正 18 年（1590）に廃城となったといえます。

## □：不動の滝

東京の名湧水 57 選にも選ばれた名水です。ここは昔大山詣りや富士詣りの人々が、滝にうたれ心身を清めるみそぎ場でした。昔は垢離堂（こりどう）が滝つぼの前にあり、どんな旱魃の年でも水が枯れない湧水でした。近年は、水量こそ減りましたが、今でも枯れることなく流れ落ちています。



## □：東京大仏(乗蓮寺)

### □：乗蓮寺

乗蓮寺は、昭和 46 年に板橋区仲宿から現在の赤塚に移転した寺院で、徳川家康から 10 石の朱印地を寄進された格式ある寺院です。また 8 代將軍吉宗のとき、鷹狩の際の休憩所に指定されるなど、関連する文化財を所有しています。



### □：文化財

■ 植村直己の墓……植村は世界的にも知られ、国民栄誉賞も受賞した日本の冒険家。1984 年にマッキンリーにて消息を絶ち遺体等は発見されなかったが、彼を供養するための墓が当寺院の境内にある。



■ 天保飢饉供養塔……当寺院が仲宿にあった江戸末期に起こった天保の大飢饉で、板橋宿において死んだ人々を当寺院に埋葬・供養した際に建立された供養塔。板橋区の文化財に指定されている。

■ 旧藤堂家染井屋敷敷石造物……現在の豊島区駒込付近にあった津藩藤



堂家下屋敷(染井屋敷)に置かれていた石像。昭和 42 年に乗蓮寺へ寄贈された。

## □：東京大仏

境内にある東京大仏は、阿弥陀如来坐像で、青銅製の鑄造大仏では、奈良・鎌倉に次ぐ日本で 3 番目の大きさを誇ります。高さは基壇



が地上 2 メートル、蓮台 2.3 メートル、座高 8.2 メートルの計 12.5 メートルの青銅製で重さが 32 トンあり、浅草の仏壇店翠雲堂が製造しました。東京大空襲、関東大震災などの悲惨な戦災・震災が

起きないように願いを込めて、昭和 52 年に建立されました。新東京百景にも選ばれています。



## □：赤塚植物園

この植物園は、武蔵野の面影を色濃く残す赤塚の丘陵地を活用し、自然や植物がより身近なものとして親しむことができるような施設として 1981 年(昭和 56 年) 10 月に開園しました。

園内の樹木や草花は、600 種を超えます。小高い山に入り込んだ雰囲気

で、四季折々の変化を楽しめ、自然に親しむには最適の場所です。

本園と万葉・薬用園からなり、本園は、約 1ha の敷地内に樹木見本園として多くの樹種が植えられ、その下には野草も可憐な花を咲かせます。また万葉・薬用園には、万葉集に詠まれた植物や薬用植物が植えられています。



## コースマップ



西武バス 成増駅発大泉学園北口行バス時刻表

13:08、21、50

14:01、12、32、32、51

15:15、40